

### 1 【活動の趣旨】

全学年が、地域のくらしや自然をテーマに環境学習に取り組んでいる。草津市が推進する地域協働合校事業を活かし、地域の様々な世代の人々に教わりながら学習を進めている。その学習成果をまとめて、地域の「ふれあいまつり」の日に合わせて、校舎内に「渋川ESD(いいまち 渋川 だいすき)ミュージアム」を開館し、地域の人々に発信している。

### 2 【特徴的な活動内容】

#### ○「滋賀の郷土料理学習」

5年生は、漁師や農家の方、郷土料理の専門家など、様々な人に教わりながら、アメノイオご飯、湖魚の佃煮、丁稚羊羹など滋賀の郷土料理作りに取り組んだ。そして、学んだことをまとめ、ふるさとの食文化を継承していくために、「滋賀の郷土料理博物館」を開館した。



【アメノイオご飯試食会】

#### ○「世界農業遺産学習」

6年生は、滋賀県が登録を目指す「世界農業遺産」について学びを深めた。琵琶湖と共生してきた滋賀の農林水産業の魅力を考えることを通して、郷土への愛着や誇りを深めることをねらっている。

### 3 【実施に当たっての工夫】

- ・5年生の取り組みでは、滋賀の郷土料理について調べるだけではなく、調理をして味わう体験を数多く取り入れた。また、学校の畑では、農家と連携し、大豆、日野菜、小松菜などの野菜の栽培に取り組み、その野菜を使って郷土料理の調理実習を行った。さらに、滋賀の郷土料理や食文化のすばらしさを伝えるために、博物館づくりだけではなく、子どもたちが地域に出かけて行って、地域の人々と郷土料理について考える交流会を実施した。
- ・6年生の取り組みでは、農業・漁業に携わる人をゲストティーチャーとして学校に招いて話を聞くことができた。滋賀の農林水産業の現状に学ぶため、様々な人と協働する中で、コアユの佃煮試食、セタシジミご飯試食など多様な体験を取り入れることができた。



【鮎ずし漬け見学】

### 4 【事業の成果】

本報告では、2事例であるが、どの学年でも地域の方に協力を得て子ども達の豊かな体験の場・学習の場を提供していただいている。活動を通して子どもたちは地域に対する愛着を育み、地域行事に積極的に参加する子どもも多い。また、保護者にも地域のことを知ってもらう機会となっている。テーマの通り、子どもも大人も活動に関わることで学び、ふれ合いを深めている。



【渋川ESDミュージアム】

### 5 【事業実施上の課題・今後の連携・協働活動実施に向けて】

同じ活動でも、子どもの実態に合わせた工夫の余地がある。「毎年取り組んでいるから…」という活動にならないように、めあてをしっかりと意識して取り組みたい。